

中越沖地震によるJR貨物輸送のトラック代行輸送を視察

直江津港に設置されたトラック代行輸送「JR貨代行基地」

2007年7月16日に発生した中越沖地震で黒井駅～新潟貨物ターミナル駅間と富山貨物駅～南長岡駅間はトラックによる代行運転が行われている。北陸新幹線並行在来線問題5県連絡会は8月11日、直江津港代行運転基地と黒井駅の貨物線を視察した。今回の地震による鉄道貨物障害は、地震発生から一ヶ月近くにもなるがまだ復旧の日程が確定していない。

私たちが訪れたのは直江津港に臨時に設置された黒井駅～新潟貨物ターミナル駅間の「JR貨物代行基地」である。視察は午前11時すぎであったがすでに30度を超えているだろう。熱せられたコンクリートの熱さが靴の底から伝わってくる。



全国から集められたトラック

「JR貨物代行基地」は、新潟・南長岡行、九州行、梅田行のゾーンに分けられ12フィートコンテナが積まれている。直江津港に臨時代行基地が設けられたのは、黒井駅の基盤整備が出来ておらず数十台のトラックを駐車できないからである。8月10日の代行便トラック台数は69台で、168個のコンテナを輸送した。代行トラックには、「新潟タ～黒井 代行」と運転席に表示してある。この代行トラックは、日通と全国通運グループが配車しており、「旭川」「庄内」ナンバーなど全国から集められた車両である。



代行トラックに積むコンテナは2～3個、貨物一両には5個

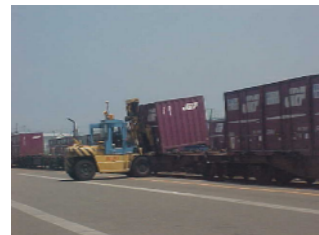
代行トラックに積むコンテナは、2個ないし3個である。貨物列車の一両に積めるコンテナは5個である。貨物列車は20両の場合はコンテナ100個が積める。全部に積み込むのは大変な作業である。



地震発生当初、マスコミ報道では100台のトラックが代行輸送と報道したが、100台でもコンテナの数は200個程度で、貨物列車2運行ぐらいだ。鉄道貨物輸送はいかに大きいかがわかる。

もしも、第3セクター会社だったら

今回、私たちが引率案内をしてくれた大平淑正氏(南長岡派出、黒井駅在勤)は、「荷物を運べば運ぶほどJR貨物は赤字。それでも荷主を引き留めておきたいから会社は必死だ」と語るとともに、「もし、並行在来線を引き継いだ第3セクター会社であったら、「線路使用料は入らない、復旧費用は大きなもので、復旧もままならない。はたして復旧できるか」と言っていたがその通りである。



貨物鉄道輸送の動脈は国の責任で

被災された方々に心からお見舞い申し上げます。今回の代行輸送を視察し、災害にともなうインフラの確保とモーダルシフトの重要性を目の当たりに改めて認識させられた。日本を縦断する二つしかない一つの日本海側ルートの確保と維持に、国は災害補償を含めた、しっかりとした対策をとるべきである。(写真左は黒井駅・本線)

(2007年8月12日公共交通をよくする富山の会・渡辺眞一)